

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292400041		
法人名	株式会社 平山建設		
事業所名	グループホーム やまなみ		
所在地	〒037-0301 青森県北津軽郡中泊町大字今泉字神山147-1		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物周辺の景観が良く広々としており、ホーム内からも四季の移ろいを感じられる立地となっております。建物内は県産のヒバ、スギを活用しており入居者様の健康や環境に優しく暖かみがあります。食事は、入居者様の希望や嗜好を取り入れ柔軟に対応しています。また、源泉掛け流しの温泉があり、入居者様の楽しみとなっております大変好評です。隣接する事業所との合同の夏祭りには、地域住民の方が沢山参加され、地域の祭りとして定着しています。また地域のイベントにも積極的に出掛け、交流を大切にしています。運営理念である「あなたらしさをお守りします これまでの暮らしに敬意を これからの暮らしに希望を」を念頭に、職員で毎年事業所目標を決めて取り組んだり、独自のBST活動を行い、入居者様の生活の質の向上、職員の資質向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は景観が良く、四季の移り変わりが楽しめる立地である。事業所内は木(青森県産のヒバ・スギ)の温もりと匂いや光触媒により五感が刺激され、居心地の良い空間となっている。源泉かけ流しの温泉があり、24時間入浴できる環境であることも魅力の一つである。隣接する事業所と合同で運営する夏祭りが地域の行事として定着し、地域との繋がりは深い。加えて困難事例の解決にも貢献するなど、町役場や地域包括支援センターからの信頼も厚い。BST(ビューテフル・スマイル・トーク)活動と名付けた独自の取り組みを通じた理念の共有と、代表者と労働者の意見交換が盛んに行われ、質の高いサービスを提供しようとする姿勢・意識は高く、ハード、ソフト面双方ともに質が高く、入居者本位のケアを実践する事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を念頭に今までの暮らしを大切に考えながら入居者様と関わりを持ち、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、年次目標やBST活動を通じて職員皆同じ目標に向かい取り組みしている。毎月、職員間で話し合い、実践・評価している。	理念は事業所内に掲示され、毎月職員間で共有している。BST(ビューテフル・スマイル・トーク)活動と名付けた独自の取り組みや年次目標を通じて地域密着型サービスの意義や役割を考え、理念が反映されているかを立ち返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との繋がりを自粛しているが、施設の祭りは、地域住民との交流の場になっている。地域行事である賽の河原や町のイベントにも積極的に参加している。地域の商店、理美容店の出張は、感染対策をとりながら馴染みの関係を継続している。	コロナ禍のため自粛しているが、地域の伝統行事である『賽の河原』や『夏祭り』等を通して、顔の見える関係作りが行われている。また、感染対策を講じながら地域の商店や理美容店へ定期訪問を依頼し、日常的な交流も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域の祭りとなっている施設の夏祭りが感染予防の為中止となり、地域交流が難しくなっているが、夏祭りや推進会議などで発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、感染予防の為、2ヶ月に1回書面による開催となっている。日頃の生活スタイルやサービス内容など写真を取り入れて報告し、書面にて意見を頂き、サービス向上に努めている。	コロナ禍のため会議は自粛している。代替えとして2カ月毎に家族や町役場等へ書面を送付し、情報共有を行っている。資料に写真を添付する等の工夫を凝らし、意見や要望をサービスの向上に活かせるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と協力し、町の課題の解決に向けた話し合いや対応を協力しながら共に取り組んでいる。また、認定更新の手続き、認定調査の提出等で市町村担当者と連携を図っている。	日頃から事業所の実情や課題を共有し、運営やケアに関する助言を貰うなど、協力関係が築けている。緊急でショートステイを受け入れ、ネグレクト事例の解決に貢献するなど、町役場や地域包括支援センターからの信頼は厚い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月毎に開催し、報告・相談し内容を審議している。生命の安全を第一に拘束が必要かどうか密に話し合い、必要になった場合は、家族に説明し、同意書を頂いている。その際は、定期的に話し合い、早期解除に努めている。	現在、身体拘束の事例はないが、3か月毎に『身体拘束廃止委員会』を継続して行っている。委員会以外にも、日頃のコミュニケーションにおいてケアを振り返り、職員の意識共有を図っている。事業所全体で身体拘束の内容と弊害を理解し、身体拘束をしないケアの継続に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍で外部研修に参加出来ていないが、BST活動の内容で、全職員が共通の目標に向かい取り組みしており、日頃から職員同士で話し合い、入居者様の尊厳を第一に考え、言葉掛けに配慮し、日々のケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの出前講座や施設内外の勉強会に参加し、職員は制度を理解している。現在、日常生活自立支援事業を利用している入居者様の支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解除の際には、入居者様の家族の不安や疑問に懇切丁寧に対応している。契約に変更があった際は、文書で通達し、来訪時に再度説明を行い納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際には家族と情報交換をし、信頼関係を築いている。又、受診前後の電話報告は必須としている。又、年度初めに入居者様に向け、総会を開催し、活動内容や計画を報告し、今年度の活動を共に考え、支援している。	入居者からの意見・要望を聞く機会として、年に1回『総会』を開催している。また、面会や電話連絡を通じて、家族との意見交換も随時行われている。意見や要望を運営に反映させようとする意識は高くある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や夕礼、毎月の定例会で意見交換を行っており、職員全員から意見を聞き、提案のあったものは密に話し合いが行われ運営に反映されている。定例会では、代表者とお茶を飲みながら行ったり、朝礼は座って行うことで会話も弾み話しやすい環境となっている。	月1回の『定例会』に代表者・管理者が参加し、職員の意見や提案を聞く機会が設けられている。物品購入や勤務形態の提案が採用されるなど、気付きやアイデアが運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員と積極的に会話する機会を持ち、個々の状況を把握し、勤務形態や時間を考え対応している。働きながら子育てが出来るよう職員の要望にも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量や経験に応じて研修に参加出来ている。施設内研修では、その時に必要な課題を取り上げたり、外部研修の行ったり等、意見交換を行うことで職員のスキルアップを図っている。新人職員に対しては新任研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や地域ケア推進会議、GH交流会に参加し、意見交換を行うことで、情報の収集とサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時、本人や家族からの基本情報や生活情報を詳しく聞き、不安な事や要望にも対応している。入居者様の今までの暮らしや思いを大切に、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階から、家族の思いや希望、ニーズを把握するよう努めている。家族の要望を親身に聞くことで、いつでも気軽に相談できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と十分話し合い、何を必要としているかを見極めている。必要に応じて、包括等各関係機関との連携を図り、ニーズに添ったサービス提供を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場でその人らしさを引き出しながら得意分野を見つけ、できる事を大切に、時には教わりながら共に支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の気持ちに寄り添いながら、日々の様子を毎月の施設の新聞やメッセージ、面会時にも本人の様子を伝えている。同行受診し入居者様の暮らしを家族と一緒に考え、また一緒に過ごせる場面を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の把握に努め、交流や墓参り支援を行っている。コロナ禍で出かけた、友人と会う機会が少ないがその中でも出来る事を見つけ関係が途切れない様支援している。	コロナ禍のため自粛しているが、同一会社の運営するデイサービスセンター利用者との交流が可能で、地域との接点が継続できる体制である。感染症対策を講じながら、馴染みの場所(美容室やお墓)への外出支援を継続して行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人らしさや個性を生かし、役割や共同作業等でコミュニケーションを図り、何もしない10分間とし利用者さんと一緒にお茶を飲み過ごす等の工夫をし、入居者様同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院によりサービスが終了した際は、家族の相談に乗り、本人・家族が安心して頂けるよう情報を収集し、調整を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	BST活動を通じて、毎日の会話の中から入居者様の思いや希望の把握に努めており何気ない一言や表情から気付いた事をスタッフ間で情報共有している。また、意思疎通の困難な方に対して、暮らしの中での気付きや家族からの情報や思いを大切に、意向の把握に努め実践している。	BST(ビューテフル・スマイル・トーク)活動を通じて、本人の思いや意向の把握に努めている。事業所独自のアセスメントツールを用いて、課題や援助内容を吸い上げ、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら本人、家族から聞き取りをし情報を確認、サービスに繋げ入居者様一人ひとりが自分らしく暮らせる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態や会話等、気付きや状況を記録に残し朝礼・夕礼で報告し、社長、Nsより助言を頂いた事を職員に報告し情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の担当職員が主体となり月1回モニタリングを実施。本人や家族の意向や思いを優先に見直しを行い、看護師とも相談しながら入居者様の現状に即した介護計画を作成している。	介護計画の見直しは年1回の頻度で行われている。担当職員が主体で行ったモニタリングの記載内容をもとに、サービス担当者会議において職員間の情報共有を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受診状況、身体状況、行動の変化など気付いた事を受診ノート、生活記録や業務日誌に記載している。朝礼や夕礼ではその日の出来事を報告、職員が情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化があった際は、必要に応じて話し合いをし入居者様、家族の満足が得られるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急連絡網に地域の協力委員の名前を記載しており、火災、災害時には協力を得られ、安心して暮らして頂ける様支援している。また、地元の商店や理美容店の利用、山菜取り等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に看護師が受診している。入居時は、かかりつけ医を受診しているが、状況に応じて、本人、家族の意見を聞き、適切な受診治療が受けられるよう支援している。又、受診前後の報告を必須としており、特変時には家族の協力も得られている。	入居前からの『かかりつけ医』を継続して受診できる体制である。受診の付き添いは看護師が対応し、受診前後の連絡・報告を必須とするなど、家族との情報共有が密に行われている。必要に応じて歯科医の往診も可能である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、健康管理や状態変化を密に報告し、相談、助言、指導を受けている。看護師は24時間、連絡がとれる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も早期退院に向け地域連携室や家族から情報交換している。その情報は職員間で共有し気づきや支援に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の指針を定めており、契約時には十分な説明をし、その期に及んだ際は医療機関指導もと、家族や看護師、代表者と十分話し合いし体制をとっている。看取りについては、最後は施設でと希望があった際は、家族の意向を踏まえ、随時意思確認しながら取り組んでいる。	重度化した場合や終末期支援について、入居の際から本人・家族と話し合っている。これまで看取りの実績はなかったが、令和3年8月に初めて実践することができた。訪問診療ができる医師が不足する地域の実情を踏まえ、どこまで支援ができるのか、その都度見極めを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、全職員が周知徹底している。また、Nsが講師となりAEDを使用した救命救急法を学んだりとしている。また、夜間の緊急時には宿直者や隣接している事業所より協力体制が出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中・夜間を想定した避難訓練を行っている。また、消防機器を使つての訓練を行い、全職員が機器取り扱いの習得をしている。また、地域の方を含めた連絡網を作成している。非常時に備え、非常食や防災頭巾も手作りで準備している。	夜間想定を含めた年2回の訓練を実施し、全職員が緊急通報装置の操作を習得している。地域との協力体制を築くことに加えて、非常食や防災頭巾(手作り)を準備するなど、災害に対する意識は高くある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	BST活動を通じて、入居者様のこれまでの暮らしの把握に努め、尊厳を持って対応するよう心掛けている。入居者様に敬意を払い人格を尊重した声掛けを行っており、言葉遣いに関してはお互いの振り返りを大切にしている。活動の中から、毎月魔法の言葉を考え、評価している。	『言葉づかいは心づかい』という年次目標と『魔法の言葉』を毎月掲げ、全職員が自己評価を行っている。誇りやプライバシーを損ねるような不適切な言動・対応となっていないか、日常的な確認を行い、事業所内の風土作りに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの工夫、表情や反応を読み取り、入居者様の希望を把握できるよう努めている。買い物や行事等で、自己決定できる場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、体操と皆さんで過ごす時間もあるが、居室等で思い思いに過ごせる様個々のペースに合わせ柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服は自分で選んで頂き着ている。選ぶ事が難しい方はスタッフが声掛けをし一緒に選ぶ等身だしなみやおしゃれが出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮な物を取り入れた食事を提供している。隔月で行っている料理教室、食堂(やまなみ亭)では、手作りにこだわり、季節に合わせた楽しめるメニューを提供し、入居者様に喜んで頂いている。また、入居者様個々の力量に合わせ、準備や片付け等を一緒に行っている。	食事への関心が高まるよう『料理教室』を開催し、季節や旬の食材を取り入れたメニューを提供している。入居者それぞれの能力に合わせた準備や後片付けを促し、職員も一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を生活記録に記録し把握している。体調や嚥下状態に応じ、嗜好品や食べやすい物や助動方法、食器を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄・うがいを行っている。就寝前は義歯洗浄剤に浸けまた、口腔スポンジやガーゼを使用し清潔を保持し口腔内の手入れは個々の力量や状態に合わせ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。失禁時の対応は入居者様の羞恥心やプライバシーに配慮し、本人の負担にならないようにしている。	入居者一人ずつ『排泄確認表』を作成し、排泄パターンを細やかに記録している。職員間で入居者の排泄サインを把握・共有し、可能な限りトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には起床時、乳製品・水分を摂取して頂きました、腹部マッサージや適度な運動をし自然排便が出来る様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	源泉掛け流し24時間入浴可能。バイタル測定をし体調を考慮し本人に合わせた入浴を行っている。	源泉掛け流しの温泉で、24時間入浴が可能である。週2～3回の入浴を基本としながらも本人の希望や体調などを考慮し、排泄の失敗による汚染や外出前に入浴を支援するなど、一人ひとりの状況に合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や習慣に合わせて休んで頂ける様にしている。夜間眠れる様、日中交流や作業等活動出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の病歴を把握し説明書は各生活記録に挟んでおりいつでも確認できる様になっている。状態の変化に注意し、情報を共有している。誤薬がない様袋にマーカーし服薬管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の立場に立って、出来る事は行って頂いている。洗濯たたみや食器拭き等役割分担をする事で生きがいのある生活が送れるよう常に気を配り支援している。毎月料理教室等行う事で楽しみの一つとなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園外散歩やドライブまた受診後の買い物・さくらんぼ狩り、墓参り支援とコロナ禍でも出来る事を考え支援している。	コロナ禍に合わせた感染症対策を講じながら、買い物・墓参り・ドライブなど、個々の希望に合わせた外出支援が行われている。その他にも事業所内周辺を一緒に散歩するなど、入居者が事業所の中だけで過ごさない工夫が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預かり管理している。家族、本人の希望で少額所持している方もいる。施設に設置している自動販売機での購入や出張販売では自分で選んで頂き購入等を行っている。家族へは毎月小遣いの確認後、捺印を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった際は、いつでも電話が掛けられるよう支援している。子機を使用し、居室での会話が出来る様配慮している。また、年賀状や暑中見舞いを送る事で本人の様子を伝え関係性が途切れない様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体に光触媒を行っている。暖房設備に関しても充実している。生け花教室や菊まつり、ちぎり絵など入居者様と一緒に季節感に合わせた装飾を行い、食卓の場・くつろぎの場とメリハリが付くよう工夫をしている。	木の温もりと匂いや光触媒により五感が刺激され、居心地の良い共用空間となっている。食卓とくつろぎのスペースが分けられていることに加え、季節に合わせた装飾や作品が掲示されるなど、暮らしの場が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内が広々とゆったりとして開放感があり、ソファを数箇所設置し、落ち着いて思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れた物、タンス、生活用品等持参して頂き、安心して過ごせる様配慮している。又、家族の位牌を持っている方もおり、朝、職員とお供えしている。	写真・仏壇・位牌・使い慣れたタンスなど、本人にとって馴染みのものを持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫・配慮が行われている。毎朝のお供えや手を合わせる習慣が継続できるよう職員も一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーになっている。変化があった際は、状態に合わせて都度話し合い環境を整えている。		